



## 2 白山登山

### 2-1 白山へのあこがれ

8月中旬に白山を訪れました。白山は、石川県の最南部に位置する活火山で、「白山」の名は、最高峰の御前峰（標高2,702m）、剣ヶ峰（同 2,677m）と大汝峰（同 2,684m）を中心とした総称です。富士山、立山とともに日本三霊山のひとつとされ、一帯が白山国立公園に指定されています。一年の多くが白い雪に覆われ、それが語源となり、信仰の所以となっています。



写真2

ハクサントリカブト



写真1

ハクサンフウロ

学生の頃、厳冬の穂高連峰では、ほぼ真西に見える白山が雲に隠れると、間もなく穂高周辺も悪天候となる、とよく話題にしました。それ以来、遠くて白く輝く、憧れの存在でした。

### 2-2 白山の植物

「白山の高山植物」（石川県白山自然保護センター、平成3年）によりますと、「ハクサン」の付く植物名は、高山植物を中心に18種（当時）に上るそうです。また、亜高山帯針葉樹林でよく見られるゴゼンタチバナの「ゴゼン」は御前の意、オヤマリンドウの「オヤマ」は御山の意で、いずれも白山に由来しているそうです。



写真4

ハクサンカメバヒキオコシ



写真3

オヤマリンドウ

写真1～4は、いずれもこの度見られた関連の植物たちです。

室堂付近では、多くのクロユリが見られましたが、既に花期は過ぎていました。他にも多くの高山植物を楽しむことができました。

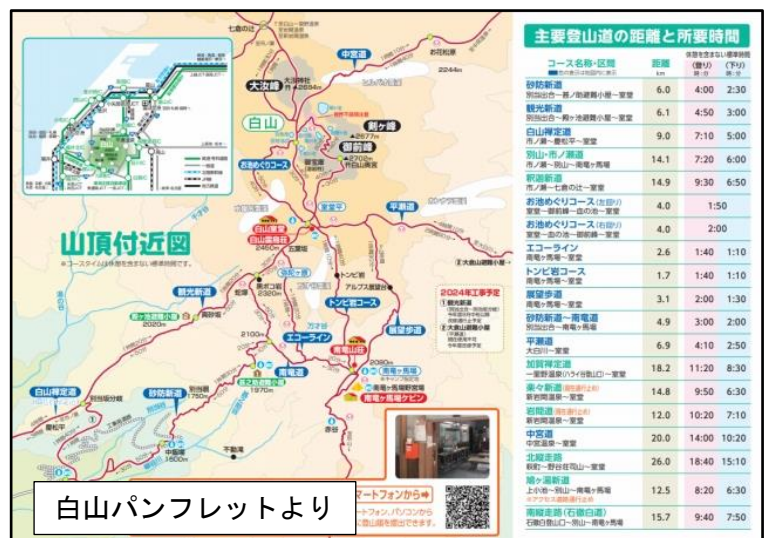
### 2-3 白山で出会った人たち

子ども連れ、若者たち、高齢夫婦など、老若男女様々な人たちに会いました。埼玉県から車で来て、この度が7回目と言う女性。兵庫県からバイクで来て、テント泊の若者。子どもや若者からはエネルギーをいただき、高齢者同士は励まし合って、楽しく充実した時間を過ごすことができました。

### 2-4 白山までの交通と登山コース

週末には金沢駅から朝6時台に直行バス（所要2時間）が出ています。途中でシャトルバスに乗り換えて15分ほどで、登山口の別当出合に着きます。環境保全のため平日以外は自家用車は入れません。

別当出合から白山山頂（御前峰）まで、歩程5時間ほど。室堂にあるビジターセンター（山小屋）に泊まることができます。基本的に相部屋です。ここに泊まれば、ゆっくり余裕を持って高山植物などを楽しむことができます。この度は、相部屋が苦手なので、頑張って日帰り山行（全行程12時間ほど、標高差1,440mほど）にしました。



(記：茂原市 望月)



## 覆ったり、開いたり

9月7日に稲毛海浜公園で行った観察会での出来事です。スタートして最初にジョロウグモのアミを観察しました。クモは苦手という人が多く、この日も聞いてみました。私の班では一人いました。そこで思い出したのが10月まで開催している昆虫マニアック展でのことです。今回の展示は、お笑いコンビのアンガールズ山根さんが昨年11月に発見した新種の昆虫模型も展示されるなど前宣伝が行き届いていたこともあり、超マニアックな展覧会が知れわたっていました。平日でも夏休み中とあって幼児・小学生が親に付き添ってもらふ姿が思いのほか目立ちました。嬉々として観覧に訪れた子どもたちにはどのように映ったのでしょうか。

さて、マニアック展のクモのコーナーで、「スゴイネ、スゴイネ」と言いながら左手で目を覆い、「見たくないから見ないぞ」モードに入ったのではないかとと思われる女性が通り過ぎていきました。無言で通り過ぎればいいものを、連れの子どもの手前、何らかの反応を示す必要があったのでしょうか。「スゴイネ」でクモの邪気を払いのけようとしていたのかもしれませんが。素直な反応だったと思います。

稲毛海浜公園の話に戻って、参加者にジョロウグモについて説明を加えました。頭が下にある、オスが網の端っこにいる、オスは体が小さい、アミに使っている糸には縦糸と横糸があって、横糸がネバネバしていました。クモの腹は赤くなり、個体によって次第に大きくなっていく様子が見てわかりました。

この日の目的は虫と友達になるでしたので、広場で荷物を下ろしてみんなに円状に並んでもらい「せーの」の掛け声で真ん中に敷いたシートに向かって囲い込んで虫たちを追い込んでいく追い込み漁をやってみました。バッタ類が音を立てて逃げまどいながら、真ん中のシートに集まってきました。すると小さなお友達でも捕虫できることができました。もう一度やると効果があるかなと思いました。その後、捕虫アミを持ってきた子どもたちに30分ほどアミを振ってもらいました。

観察会の最後に参加者に感想の聞き取りを行いました。「初めて海浜公園に来ました。昆虫採集も初めてでした」ということだったので「虫はどうですか」と畳みかけると「子どもが好きそうなので、何とかできそう」ということでした、「無理せずに」と返しました。別の参加者は「これまで、ほかの目的で来ていたが、こんなに近くで昆虫や植物がみられる」とのことだったので「近所ならまた来てください」と付け加えました。

(松戸市 藤田 隆)



## 世界に一つだけの花

下のサツキは我が家のオリジナル品種で世界に一つだけの花です。これらは育種を目指して人工交配した訳では無く、蜂が勝手に花粉を運び、種がこぼれて自然に発芽したものです。商売人なら系統不明の駄物として処分するでしょうが、縁あって我が家の一員になった花ですから10年以上世話を続けています。

品種名は本来ならサツキ団体に新品种としての登録申請をして、審査に通る必要があります。

団体に属さない個人では登録申請さえできませんが、自分だけで楽しむのには未登録でも問題ありません。

まだ花の咲かない幼木も出番を待っています。

佐倉市 坂本 文雄



溪の涼風 瀬音に混じりカジカの声も聞こえそう



伏見白 這松のように低く茂るので伏して見る



矢谷 有名品種の八咫の鏡に似ている



波平 並みで平凡 サツキに多い花の芸



金太郎 丈夫で育てやすい



名札は特注 1枚220円でした